



# 白桜小だより

平成 29 年度 10 月号  
中野区立白桜小学校  
校長 宇賀神 佳子  
平成 29 年 9 月 29 日発行

## 小中連携教育～発展期をむかえて～

副校長 藤原 留美子

「足を高く上げると、うまくできた。高橋先生に、助走のことを教えてもらったら、とても楽に跳べて良かった。」「(めあての高さを)跳べるようになったけれど、足がピンと伸びなくて難しかった。高橋先生に技を教えてもらったので直したいです。めあて合格！」(子供たちの感想)

9月21日；中学校の先生が小学校へおいでくださって、「走り高跳び」を教えてくださいました。中野区の重点施策の一つに小中連携教育が挙げられています。本校では、これまでの第三中学校との連携に、今年度から新たに第五中学校との連携が叶い、オープンキャンパス・乗り入れ指導・小中連携教育協議会等を実施しています。特に乗り入れ指導では、中学校の先生が小学校の授業に関わることによって、専門性を活かした授業を展開していただき、子供たちの学習



意欲を向上させることが期待できます。今回、体育「走り高跳び」の乗り入れ指導では、リズムカルな助走からの踏み切り、振り上げ足と踏み切り足を意識した空中姿勢、そして直地へと一つ一つの技を丁寧にご指導いただきました。児童は自身の学習のめあてを達成するために練習に励みましたが、「かかとを高く上げて振り上げる」「助走は、トントントトッとリズムよく」等、的確なご指導によって、45分間で「技が上達した!」と、多くの児童が達成感を持つことができました。

中野区の小中連携教育の取組みは6年目をむかえ、移行期・充実期を経て今年度から発展期となりました。これまでの取り組みの成果とともに、各校では連携の方法や内容をさらに模索・検討しています。

本校では、初めての試みとして、11月に開催する展覧会へ中学生の美術作品を招聘し、子供たちに中学生・中学校への憧れや期待感をもたせたいとの考えが教職員から出されました。連携中学校二校に出品を依頼したところ快諾をいただきました。勿論、今まで通り保護者の皆様・賛同いただけます地域の皆様の作品と共にコミュニティールームに展示し、展覧会が交流の場、子供たちにとっては多様な表現を鑑賞する学びの場・作りだす喜びを味わう場ともなります。

そして地域の行事に参加する中学生と卒業生の姿に、子供たちは「自分もこのような中学生・高校生になりたい」との思いを募らせています。8月26日、上高田一丁目防災会主催の親子防災訓練とPTAお楽しみ会が開催されました。地域の皆様と保護者の皆様と共に花火ショーを盛り上げてくれたのは第五中学校卒業生のボランティアの皆さんです。また9月23日、昭和地区ドッジボール大会では、地域の皆様と一緒に試合コートの整備やライン引き、審判にボール拾いと活躍してくれたのは第三中学校の生徒ボランティアの皆さんです。ゲーム終了後、互いのチームの健闘をたたえ合い「また出たい」「また来年」と来年の約束を交わす5年生以下の子供たちのそばで、6年生は「来年はボランティアで来るから」と話していました。

中学生のかっこいい姿に、自分もこうなりたいと憧れ、倣いたい気持ちが芽生えたり、中学校進学に安心感や期待感を抱いたりすることのできる小中連携教育の今後について、地域の皆様とともに考えてまいります。